

海洋教育写真コンテスト、海の生き物部門の優秀賞の作品です。南下浦小学校5年生の大澤瑠奈さんの作品で、タイトルは「鳥のパーティー」。

江奈湾の干潟は自然の宝庫で、たくさんのカニがいます。サギたちは、それを狙っているのかもしれませんが。また、江奈湾の海面のきらめきがたいへん美しく捉えられています。この貴重な自然とそこで生を営む生き物たちを守っていききたいですね。

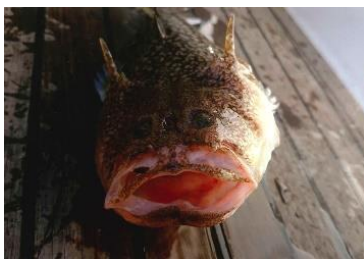


初声小学校5年生の田中碧羽（あおば）さんの作品です。タイトルは「マグロの解体」。

県立海洋科学高校の実習船湘南丸の船上での様子です。（毎年行っている「こどもの船」の時です）これから食べられるマグロをまさに解体する瞬間の1枚です。腕の盛りあがりから、マグロの堅さやそこに刃を通す苦労と気迫が見る人に伝わってきます。三崎らしい光景です。

初声小学校5年生の久田百寿（ゆず）さんの作品で、タイトルは「フジツボ山」。

まさに富士山のような、今にも噴火しそうに見えるフジツボ。その中に、寄り集まるフジツボたちのかわいらしさも同時に写しこまれていて、すばらしいです。背景の水の反射が太陽の照り付ける酷暑を物語っています。暑い中での撮影、ご苦勞様でした。



初声小学校6年生、杉澤頼紀（らいき）さんの作品です。タイトルは「イラっときて、ツノがはえてきたよ」2本のツノと大きく開いた口、魚ではなく、別の生き物のように錯覚するほど迫力のある1枚です。魚を正面からとらえることはそうそう多くないと思いますが、これほどカメラを寄せると、インパクトを感じます。ちなみに、漁師さんによると、この魚の名前は、「ミシマオコゼ」（佐島近辺ではミシマフグともいうらしい）だそうです。

海の生き物部門、特別賞の作品です。タイトルは、「つめみがき中のかにか」。旭小学校2年生の成田尊人（たかと）さんの作品です。

今にもカニが迫ってきそうな臨場感のあふれる1枚です。カニの目線に近い、とても低いアングルからアップで被写体をとらえています。ピントがカニの顔に合っており、くっきりと被写体が写し出されているところもポイントです。

カニの体に付着した海藻が、成長した時間を物語っているようにも見えました。緑、赤、白と、全体に占める色合いのバランスも美しいですね。

